

# テーマ「古満姫の松」

ジャンル：歴史的史跡

古満姫（こまひめ）は、毛利元就のひ孫にあたる毛利輝元の養女で、本当の父は毛利家臣穴戸元秀です。最初の夫は小早川秀秋でした。秀秋が弱冠21歳で亡くなったため、その後、縁のあった准尊上人という興正寺のお坊さんの正室として迎えられます。この時、ここ阿知須の地を化粧料として寄進されました。毛利のお姫様がいかに偉いとはいえお坊さんとどうして結婚することになったのかについて調べますと、実は戦国時代の戦いが絡んできました。

大坂石山本願寺軍と織田信長軍が10年間争った石山合戦。このときに、毛利輝元は石山本願寺の指揮官顕如の次男顕尊と共に兵糧を運ぶ工作を行いました。その顕尊の息子が准尊、つまり古満姫の2番目の夫なのです。つまり毛利輝元繋がりでの婚姻です。准尊が1622年に死亡すると、その後、姫はここ阿知須の明栄寺で晩年を過ごすのです。息子の准円が亡くなり埋葬したところに松の木を植えたところ、墓石を取り囲むように松が育ち、母親がわが子を抱くかの姿から、「古満姫の松」と呼ばれるようになりました。



ここからの入るといふ看板



車道から見た景色



古満姫の松